

第22回新日鉄音楽賞 贈呈式・受賞記念コンサートを開催

第22回新日鉄音楽賞の贈呈式・受賞

記念コンサートが7月9日、紀尾井

ホール(東京・千代田区)で開催された。

将来を期待される優れた演奏家に贈

られるフレッシュユアアーティスト賞に

萩原麻未氏(ピアノ)、クラシック音

楽を中心に音楽文化の発展に大きな

貢献を果たした個人に贈られる特別

賞に室井摩耶子氏(ピアノ)が輝いた。

新日鉄は音楽メセナ活動を通じて、

日本の音楽文化のより一層の発展と

将来を期待される音楽家のさらなる

活躍を支援していく。



贈呈式で挨拶する新日鉄・三村明夫会長



拍手で迎えられる萩原麻未氏



トロフィーを贈られる室井摩耶子氏



音楽文化の発展を願う
新日鉄のメセナ活動

新日鉄は1990年、新日鉄創立20周年と新日鉄コンサート放送35周年を記念して新日鉄音楽賞を設け、日本の音楽文化の振興に努めてきた。また本年4・5月には紀尾井ホールを本拠とするレジデント・オーケストラ紀尾井シンフォニエッタ東京が、日本から米国への桜寄贈百周年を記念するアメリカ東海岸主要4都市での公演に招聘され、日米友好の懸け橋として大きな成功を収めた。新日鉄の三村明夫会長は、音楽賞贈呈式で次のように挨拶した。

「お二人の受賞を心よりお慶び申し上げます。本賞の創設以来、毎年素晴らしい方々が受賞され、その後も期待に違わず活躍をされていることを大変喜ばしく思います。今後も多くの皆様が演奏を楽しんでいただき、日本の音楽家の優れた芸術が国際的に評価されることを願っています。当社は本賞ならびに公益財団法人新日鉄文化財団を通じた音楽支援を社会貢献活動の柱として、さらに活動を深化拡大させ、日本の音楽文化のより一層の発展に努力していきます」

若手のホープと 卒寿の現役ピアニスト

フレッシユアーティスト賞の萩原氏は、広島音楽高等学校を卒業後、文化庁海外新進芸術家派遣員としてフランスに留学。パリ国立高等音楽院修士課程を首席で卒業し、2010年のジュネーブ国際コンクールピアノ部門で日本人として初優勝、同コンクール8年ぶりの優勝者となり大きな注目が集まった。国内では11年11月、紀尾井ホールでデビュー・リサイタルを行い、深い洞察力と豊かな音楽性に彩られた演奏が高く評価された。贈呈式でトロフィーと副賞を贈られた萩原氏は次のように喜びを語った。

「素晴らしい賞をいただき、とても光栄です。歴代の受賞者の方々を思うと、受賞の重みを感じるとともに、これからもピアノ演奏を通して素晴らしい作品を広めていく一助となることができるよう、身を引き締めていきたいと思えます」

特別賞の室井氏は、1921年生まれ91歳の現役ピアニスト。41年東京音楽学校（現・東京藝術大学）を首席で卒業後、45年1月に日比谷公会堂で日響（現・N響）ソリストとしてデビュー。56年「モーツァルト生誕200年記念祭」に日本代表としてウィーンに派遣され、ベルリン音楽大学に留学。ベルリンを拠点に海外13カ国で演奏を重ね名声を高め、64年にはドイツで「世界150人のピアニスト」

に選ばれる。帰国後、74歳となった95年から始めた「トーク&コンサート・シリーズ」は23回を数え、今もなお子どもから大人まで多くの人々に感動を贈る演奏活動を続けている。室井氏は受賞の喜びを次のように語った。

「長年にわたり私を見守り支えてくださった多くの方々に深く感謝しています。これからも愛する音楽と共に生きていきたいと思っています。音楽の素晴らしさ、楽しさを皆様と一緒できたら、これ以上の喜びはありません」

厳しく、優しく、 豊かな音楽人生

贈呈式に続いて、まず室井氏の受賞記念演奏・トークが行われた。モーツァルト



モーツァルト「アダージョ 短調KV540」を披露する室井氏

「アダージョ 短調KV540」の演奏後、フリーアナウンサーの好本恵氏と音楽ジャーナリストで新日鉄音楽賞選考委員の富永壮彦氏が、室井氏の音楽人生に迫った。富永氏は室井氏の中学時代からの活躍ぶりを知る旧知の間柄で、「気が緩んで漫然と時を過ごしてしまうことがあります。そういうとき、3年前に室井さんからいただいた『生きている間は生きていきたいと思っております』と書かれたはがきを読み返して『まだ若いのに何しているの!』と叱咤激励していただいています(笑)」というエピソードを披露。室井氏は「無機質なピアノの音がどうして人々を魅了してやまないのか。この歳になっても不思議なことが多すぎて(笑)」と来場者に語りかけ、演奏を交えて音楽の神髄の一部を解き明かしていった。



好本恵氏(左)、富永壮彦氏を交えて楽しい受賞記念トークが行われた

さらなる高みを 目指して

続く受賞記念コンサートでは、萩原氏が初々しい白いドレスからシックな黒いドレスに着替えて登場。パリを拠点に研鑽を重ねつつ、さらなる高みを目指して演奏活動を展開している萩原氏らしく、フランスを代表する作曲家ドビュッシーとメシアン曲や、故郷ポーランドへの想いを胸に人生の多くをフランスで過ごしたショパンのソナタを熱演した。みずみずしい若さ溢れるピアノ演奏を心ゆくまで堪能した来場者から大きな拍手がわき上がり、第22回新日鉄音楽賞贈呈式・受賞記念コンサートは幕を閉じた。



フランス人作曲家の作品に想いを馳せた萩原氏の演奏